

プロジェクトそれぞれの夏 - 5プロジェクトの活動報告 - Summer of Each Project - The Report of Five Projects -

紙面から溢れんばかりの活発に、着実に進む各プロジェクトの活動。
それぞれの今を報告してもらいます!

text_yasukawa

窪田 亜矢 准教授



足助 ASUKE-project プロジェクト



▲足助のまちづくりについて語る西村先生



▲中学生による A-1 グランプリ



▲萬々射的の様子

豊田市足助町では、重要伝統的建造物群保存地区選定(2011.6)を記念するシンポジウム「足助の町並みの挑戦」が8月6日(土)に開かれました。伝建調査にあたった名古屋市立大学の溝口教授と西村先生の基調講演のあと、豊田市長や文化庁文化財調査官である下間さん(我々が研究室の大先輩です!)、伝建部会長の岡本さんらによるディスカッションがありました。足助チームはこれまでの成果を展示、その他中学生グランプリ企画、親子写生大会の展示もありました。

当日はたんころりん初日でもあり、「萬々射的」を皆で楽しみました。鳥居さんのディティールは鳥肌モノです。懇親会や二次会で足助の皆様と議論を深めただけでなく、翌朝は、メンバー全員でマンリン書店の深見さんにケーキとコーヒーをごちそうになりました。今年後半の足助チームは、プランづくりからアクションへと、大きく軸足を動かします。



浅草 ASAKUSA-project プロジェクト

text_maekawa

7月30日(土)に、材木イベント光月工房を通じて、もっと自分のまちを知ってもらい取り組みを続けてきた浅草プロジェクトの次なる試みとして「夏休みこども木工教室」を有料で開催しました。

親子21組が集まり材木屋さんの指導に熱心に聞き入りながら、思い思いの舟や車を作成しました。有料といっても500円。材料費程度でまちの収入になるわけではありません。しかし、有料で



▲手作りの舟で遊ぶ子供たちも人が呼べるような質の高い技術や品物を提供できる材木のまちを目指し、光月町ではこのような無料のイベント以外の取り組みにもチャレンジしていきます!



五箇山 GOKAYAMA-project プロジェクト

text_omori

現在、世界遺産マスタープランに向けて住民会議を相倉、菅沼の2集落でそれぞれ進めており、行政のチームと共に参加しております。両集落では集まり具合や関心、議論の方向性などで異なる部分も多いのですが、合掌集落の存続については変わりありません。

先日は菅沼集落の茅屋根の材料となるカリヤスの下草刈に、筑波大世界遺産専攻の学生と共に参加



▲急勾配の斜面で茅の下草刈し、合掌集落を維持することの苦労を痛感しました。このように私たちも暗中模索の状態ですが、その中で何か新しい道筋を掴んでいきたいと思っています。



清水 SHIMIZU-project プロジェクト

text_kitagawa



▲羽衣の松で有名な三保の松原で7月25日(月)と8月4日(木)に清水PJの現地調査が行われました。両日ともに、倉庫等の建物を中心とした資源調査を行い、歴史的建築物や面白そ

うな空間を探索しました。

4日からは、日本大学のウォータースタッフ研究の学生も調査に参加。清水港に土地を持つ地元企業の方々との初顔合わせが行われ、東大チームはこれまでの研究室のPJの活動をプレゼンしました。

地元企業の方々ともお話ができ、いよいよ本格的に動き出すと思われる清水PJ。これからの展開が楽しみでなりません!



高山 TAKAYAMA-project プロジェクト

横浜国立大学
都市計画研究室
M1 鶴和 誠子



▲急斜面に家が張り付く様に点在8月3日(水)から6日(土)に、高山の現地調査に行ってきました。今年度のフィールドの1つである長倉集落は集落内の高低差が100m以上という急斜

面地で、今まで体験したことのないスケールをもつ場所でした。現地では主に住民の方へのヒアリングと合わせて、住民の方に案内していただきながら集落内の建築物や水路、農地の調査を行いました。今年度計画から実施へと段階を移していく地域も見学し、高山を肌で感じた4日間でした。ここで得た感覚を大切に、調査結果をまとめて今後につなげていきたいと思ひます。



前号に引き続き、黒瀬助教によるルンビニプロジェクトの現地報告です！

黒瀬 武史 助教

聖園のイメージは、当たり前だが、それぞれに微妙に違う。貢献するからには、立派なものにしたいタイ側の意向。管理者として現実の問題と戦わなければならないLDT。国際専門家として遺跡を守るために真っ当な意見をくれた考古学チーム。出来る限り、自然に近い状態を志向していた丹下プラン。

はじめに思いついたのは、現場の土を固めて使えないかということだった。そういえば昔、中国の公園のプロジェクトで見たような気がする。早速前の会社の上司に電話。ソイルセラミックスの資料を送ってもらう。20分程度で自然系舗装の手法をまとめた資料が元同僚からメールで届く。本当にありがたい。

ソイルセラミックスは耐久性もあり、丹下プランのコンセプトである、できるだけシンプルで自然に近いという考え方にも近い。最低限必要な路盤と路肩にはレンガを使うが、路盤はソイルセラミックスの下に隠す。路肩のレンガは土と芝生で覆う事で、横から見ると人工物がほとんど見えない様にしようと考えた。

しかし、送られてきた資料を見ると、現場の土から上質のソイルセラミックスを焼くには、日本の有名メーカーの高度



▲暖房のないホテルの食堂でデザインを検討する二人

な技術が必要とのこと。ネパールでできるのか。地場がない、特殊なデザインや高価な材料を採用するリスクは、とてつもなく大きい。ルンビニ自体もこれまで、そのギャップに苦しんできたのだ。

柵ではなく、路肩に芝生のマウンドを設けて、遺跡への侵入を防止するアイデアは、みんな賛成してくれた。タイ側の元々のデザインも、きっとタイの仏教寺院にはぴったりなのだと思うが、世界中の仏教徒や観光客が訪れるブッダの生誕地は、なるべくニュートラルでシンプルなデザインの方がいい。丹下プラン立案初期の国連のレポートにある、"The whole design should be animated by a strong and clear-cut concept devoid any narrow sectarian bias." という記述を何度も読み返した。



▲LDTが準備していたコンクリートブロック

残るは、舗装の材料だ。LDTの技術者が地場で手に入る色々なインターロッキングを紹介してくれた。ベトナムの仕事をしていたときによく見た舗装材が、なんとネパールにも。世界は、つながっている。しかし、どれもあまりに工業製品。もう少し、自然な材料は無いかと聞くと、やはりレンガだと言う。だが、ルンビニの遺跡は、そのほとんどがレンガまたは石でできている。この2つだけは避けたいというのが、考古学チームの要望だ。しかし、インターロッキングはさすがにまずい。

材料問題は難航した。一晩チームで悩んだがうまい方法がない。そんな翌朝、ネパール政府元考古学局長であるコッシュ博士がメモを持ってきてくれた。おすすめの材料があると言う。[次号に続く]

コンパ係特別企画 夏の BBQ 大会！

主催してくれたコンパ係に伝えてもらいます。

M1 浅野 純子

7月28日(木)、学内の某テラスにてBBQを開催しました。雨が降ったり止んだりの中、準備に時間がかかり予定の時間に始められないなどのハプニングもありましたが、修士博士合わせて20人強の皆様にご参加いただきました。

お肉ばかりで野菜が足りないなど、多少の不備もありましたが(笑)、なかなか美味しく召し上がっていただけたのではないのでしょうか？夏のひとときを感じられた、いい時間になりました！

参加してくださった皆様、そしてなにより準備や調理にご尽力いただいたM2の皆様、ありがとうございました！次はお月見でしょうか、紅葉狩りでしょうか。



▲鉄板に群がる空腹のM2勢



▲永瀬先生も腕を振ります！

Information

8月の予定

- 8月13～15日 佐原PJ「佐原の底力展」
- 8月17～22日 鹿児島PJ第二回現地調査
- 8月23～25日 日本建築学会大会
- 8月26～27日 清水PJ現地調査

佐原PJ「佐原の底力展」in 盆ふえすた 開催！



日時 8月13～15日
会場 旧ヨシミヤスポーツ
企画

佐原における地震による被害と影響、香取市民の取り組みを紹介。おかみさん会主催の盆ふえすたと同時開催です。

まだ佐原に行ったことがない人も是非一度訪れてみてください！

★ 編集後記

安川 千歌子

夏といえばビール！夏といえば夏野菜カレー！カレーに含まれるウコンは肝機能を増進するそうで、最近は2つを交互に摂取することで健康維持を図っています。ジュリーもなんとか終わり、明日からは晴れて夏休み！佐渡島に行ってきます。沿岸部の漁村を制覇したら新たな何かが見えてくるかも…。淡い期待を胸に、つかの間の夏休みに突入です。